



沖縄県
議会議員

サキ山嗣幸 NEWS



沖縄のことは、県民が決める。

揺るがず、進む。

2015/9 NO.95

サトウキビの長期・安定的発展を



全糖労執行委員長から要請を受ける浦崎副知事、とサキ山嗣幸県議ら。(9月6日県庁副知事室にて)

サキ山県議
らが仲介

全糖労、浦崎副知事へ要請

昨今の干ばつや日照不足、台風などでサトウキビの生育に遅れが生じた上に、害虫発生などで生産農家の収入源、製糖会社の減産と品質低下で大幅赤字が見込まれる製糖業。その経営の不安定さの解消を求め、去る9月6日、全沖縄製糖労働組合などが、社民党の崎山嗣幸県議の仲介により、浦崎副知事へ要請書を手渡しました。要請では、TPP撤退、砂糖税導入反対、糖価調整法の安定的運用など、多岐にわたる事項を要請しましたが、全糖労の山里執行委員長や同行した崎山県議らは農業の基幹作物の危機的状況を県も認識し、

糖業関係者の長期、安定的発展のため、要請への対応を求めています。



離島住民の生活向上 経済振興に力尽くす

久米島など離島の発展へ提言数々

本島に比べハンディをもつ離島住民は、生活の利便性の向上、災害に強い島づくりを願っています。サキ山さんは、これまで離島振興への数々の提言を行い、離島地域の要請を県当局に伝える橋渡しにも尽力しています。

これまでサキ山さんは、離島の方々から要請や相談を受け、これを県議会で質問してきました。最近、取り上げた課題を紹介しますと、

◆本島と周辺離島(渡嘉敷、座間味、粟国、渡名喜、久米島、南北大東)を結ぶ表玄関の役割を果たしている、泊埠頭施設の整備および那覇港湾機能再編計画見直しについて、

- ① 渡嘉敷、座間味の屋根付きボンツーンの設置
- ② 陸電施設の設置及び整備
- ③ 泊埠頭への屋根付き歩道の整備
- ④ 周辺離島フェリーを那覇埠頭に集約する計画は、利便性の観点から従来通り泊埠頭を拠点にすべきだ。



これについて県は、フェリーの泊埠頭の拠点化をH27年3月26日の第3回委員会に提案しました。

◆「島たび助成」事業は、フリー運賃や宿泊費の助成で、離島の観光や地域活性化につながるので実現すべきだ。

これについて県は、フェリー運賃、宿泊費の助成をH28年度に実施すると明言しました。

◆その他、次の提言・要望もしています。

- ① 小型旅客船に対する軽油取引税への課税免除の恒久化
- ② 久米島-那覇路線の航空、航路運賃

- 低減を一般利用者、観光客に拡大
- ③ 離島のガン患者、難病患者支援のため、放射線治療に加え、手術、科学療法、ペット検査等にも、宿泊費、航空費、航路運賃の助成拡大。



県議会経済労働委員会へ久米島町を視察。棚原議員は崎山さんの沖水の後輩である。



日台漁業協定見直しを強く求める崎山県議ら。

日台漁業協定で政府要請

政府は沖縄の頭越しに、しかも台湾側に大幅に譲歩する形で、日台漁業協定を締結しました。崎山議員は、沖縄の漁業者にも不利益とならないよう、県、漁業団体等とも連携し、取り決めの見直しを台湾側と交渉するよう、強く国に求めました。

STOP辺野古!



安全な街へ一歩、古蔵小学校区の防犯灯実現へ

毎年5基ずつ設置予定

夜間暗く、特に子ども達のためにも防犯灯の設置が望まれていた古蔵小学校近くの市街地。その近くのピザ屋さん「ばーすぬ家」店長の瑞慶覧尚さんから、ぜひ防犯灯設置を急いでとサキ山さんに相談がありました。サキ山さんは早速いろいろと調査し、防犯灯補助申請に必要な

人数5人を集め「古蔵小学校区防犯友の会」を結成。市役所（生活安全課）への補助申請、沖縄電力、道路管理者への折衝を精力的に行い、このほど今年10月にまず防犯灯5基が設置されることになりました。

今後は毎年5基ずつ増やす予定で、夜間でも明るく、より安全・安心な街になると、瑞慶覧さんはじめ住民の方々に喜ばれています。

←この話題は新聞の記者席(琉球新報9/24)でも紹介されています。

地域の強い要望を受け
がんばりました。



古蔵小近辺の市街地。毎年5基ずつ街灯が設置される。



もっと光を

○...地元那覇市国場が校区に含まれている古蔵小学校周辺に防犯灯を設置する活動に取り組んでいる崎山嗣幸県議(社民連盟)。「最近、全国で子どもの誘拐事件や殺人事件などが起きており、安全のために設置が必要だ」と語る。このほど、那覇市の補助制度を活用して5基を設置できることになり「基地問題で忙殺されがちなが、地域のことをやるのも議員の仕事だから」と成果を強調。防犯灯の設置によって、文字通り地域の課題に光を当てたようだ。

記者席



「ばーすぬ家」前で瑞慶覧さんとサキ山さん



現在行われている鯉のぼりまつり

散策やウォーキングを
快適に楽しめる

国場川護岸の環境整備を

県が管理する国場川。昔は浸水騒ぎも起こったが、河川の改修が進み、災害は少なくなりました。国場川は子ども達の格好の水遊びの場でもありました。近年は市街化により川の汚染が進み、一部を除き護岸は雑草が茂り美観上も決して好ましい環境ではありません。

崎山さんは自分も幼い頃遊んだ川で

あり、地域の要望も強く、市議時代から改善を求めてきました。今後も災害に強い国場川はもちろん、特に遊歩道が途切れ、未整備箇所が多い地区の早急な整備を県当局に提案したいと話しています。毎年行われている「鯉のぼり祭り」と組んだ花見や、上流から下流へ「さがりばな」などの植樹で、快適な散策やウォーキングが楽しめる環境整備に、期待がふくらみます。



護岸環境整備でウォーキングが楽しめたら...



事業の加速が望まれる真和志線。現場をみる崎山さんと鳥袋さん

真和志線 拡幅工事の 加速を

交通量が多く歩道も無いため、地域から危険だとして拡幅整備が望まれ、崎山さんもたびたび取り上げてきた真和志線。現在は繁多川交差点から通称工業線の620メートルの道路拡幅事業が着手されていますが、進捗が遅いため、早急な整備を望む声が高まっています。道路近くに住む鳥袋秀勝さんから再度の要望を受けたサキ山さんは、現状を再確認、市民の安全と地域の発展のためにも、工事の加速を痛感していました。



老人福祉センターが近くにあるために、お年寄りの利用者が多く、識名3丁目の傾斜のある里道。崎山さんの尽力で整備されたが、以前は人が多く、転倒して救急車で病院に運ばれた方もいるほどだった。今では手摺り柵やすべり止め舗装も施され、地域の安全通行と利便性に大きく寄与している。



里道整備に感謝
識名・平良忠誠さんご夫妻

近くに住む平良忠誠さんご夫妻も崎山嗣幸さんの尽力に感謝し、地域に欠かせない人だと語っていた。



県民の文化遺産

首里城公園を県管理へ



沖縄の歴史・文化の象徴として沖縄観光の拠点となっている首里城公園。この首里城公園を県の管理にするよう、サキ山さんは提言しています。首里城公園は年間約200万人の人々が訪れ、沖縄観光に大きく寄与し、年間収入4億円を超える多額の収益を上げていると言われていす。この管理形態を県に移管し、運営や収益の

県民の文化遺産は
県民の管理に

収益は県民にも還元を

管理を県が行えば、文字どおり沖縄県民の歴史・文化遺産となります。また、公園の収益は何らかの形で県民にも還元されるような方策をとった方が、県民のためになるのではと、サキ山さんは主張しています。サキ山さんは、県議会でのこのことについて、再度質問を行い、県当局は、内閣府、県、再生機構等の5関係機関で、移管についての協議を進めているとしています。



県民の財産として移管が待たれる首里城公園



「国は軍人の遺骨にしか興味ない」

ガマフヤー 具志堅さんと懇談



↑ 沖縄戦被災者の遺骨をガマなどから収集し、家族の元へ帰し、慰霊と地上戦の実相を伝えている、ガマフヤー代表具志堅隆松さん。

国の調査に沖縄戦被災者が漏れていることについて、サキ山さんはガマフヤーとして知られる具志堅隆松さんと懇談。その実態や内閣府へ是正要請した内容を伝えました。

具志堅さんは、自ら戦争遺骨収集対策を国へ要請してきた経験から、政府のいい加減な対応や、本土の人の無理解さに、終始怒りを込めて話していました。さらに「政府は軍人の遺骨にしか興味がない。国による召集令状で国民を戦死させておいて、その遺骨を家族の元に帰すのは国の責任だと追及しても、『はい、そうだ』と軽々しい返事ばかりだ。」と、政府への不信感と厳しい意見を持っていました。



懇談するサキ山さんと具志堅さん。



**辺野古新基地
埋立承認撤回**

沖縄無視の国の暴政・圧政に憤り



サキ山さんは、辺野古米軍新基地建設の埋立てを、前県政の承認を翁長知事が取り消したことに對し「知事の歴史的英断だ。翁長知事の取り消しに對し大きく評価する。国の沖縄に對する民意、苦難の歴史を無視した、むき出しの圧政に強く抗議し、オール沖縄の一員として、今後も翁長知事を全面的に支え、闘っていく。」と、決意を新たにしています。

政府は前知事の承認だけを根拠に、埋め立てを強行していますが、私たちは名護市長選、知事選、衆院選をはじめとする選挙で、「新基地は造らせない」との圧倒的民意を示しました。これを踏みにじることは、日本が本当に民主主義国家なのか、と各界から抗議とともに、翁長知事を支持する声が上がっています。沖縄だけに基地の過重な負担を強権で押しつけ、歴史や民意を無視する異常な国の姿勢は「民主主義破壊の暴政、圧政」そのものです。

サキ山さんは、「民主主義を守り、正しい主張しているのは沖縄だ」と、強権を振りかざす政治に憤っています。

知事の英断を評価

オール沖縄の一員として、知事を支える



辺野古の座り込み抗議団を激励するサキ山さん

2015/5/15 15:48

工事再開強行は民主主義の破壊
民意踏みにじる暴挙だ。

「崎山嗣幸と県政を考える会」第3回講演学習会

11月19日(木)

演題 **沖縄の自己決定権を考える**

午後6時半～

講師／**新垣 毅** (琉球新報記者)

会場／**那覇市職員厚生会館 3 F ホール**



新垣毅氏 (琉球新報記者)

早稲田大学は去る10月、社会や文化、公共の利益に貢献したジャーナリストを顕彰する第15回「石橋湛山記念・早稲田ジャーナリズム大賞」を発表し、琉球新報社の新垣毅編集委員の「沖縄の自己決定権を問うキャンペーン～連載『道標(しるべ)を求めて』を中心に～」が大賞に選ばれました。「崎山嗣幸と県政を考える会」では、辺野古問題等の基地問題に象徴される沖縄差別から脱却し、沖縄の自立を考えるため、講師に新垣毅氏を招き、「沖縄の自己決定権を考える」第3回講演学習会を開催します。

オール沖縄の一員として2016年に想う

この島のために知事を支え 正義を堂々と歩もう。

明けましておめでとうございます。

沖縄の「今」という時が、また屈辱の歴史、日本の捨て石にされようとしています。これでもかこれでもかと、くり返されるこの国の圧政と暴政。幾世の痛みに塩をまぶされても、優しさの中に怒りを抑え、悶々と暮らしてきた島人。だが今、島人の血は煮えたぎっている。まがりなりにも国民である我々を蔑視し、差別の極みに平然とし、醜い金欲と分断でマインドコントロールする。この非民主国家の、無慈悲で強権総力むき出しの為政者たち。こ

この島は植民地なのか。どうでもいい南の果ての小島の犬小屋か、と問うことに、今は意味すら持たない。

今年、司法という権力は、またしても琉球処分を、冷酷無表情に創るのか、知事のいう「魂の飢餓感」を慮んばかりなのか、判断を下す。

この島の本当の誇りある豊かさへ、堂々と正義を歩み続けよう。建白書の心をついに知事を支え、この島の真の安らぎの曙を迎えよう。ウシェーラッターナイビランドー。今年もご多幸を祈ります。

差別の極み、強権むき出しの政府に負けるな。



崎山嗣幸さん



翁長知事

沖縄県議会議員 崎山 嗣 幸



遅きに失した
国の戦争責任

「礎」刻銘者データベース化実現へ サキ山さんの努力実る

国による「全国戦災史実態調査報告書」に、悲惨を極めた沖縄戦の被害の実態記録が抜け落ちていた問題で、サキ山さんは「これでは沖縄戦は無かったことになり沖縄が浮かばれない」として、内閣府や県議会などで強く是正を要求。翁長知事は昨年の議会で「戦後50年を経過し、戦没者数の把握は困難だが、国の責任で記録を残すよう求める」としていました。このような沖縄の要求に対し、国はこれ認め、平和の礎の24万人以上もある刻銘者情報を整理し、データベースすることを決めました。

このことは国の戦争責任として、遅きに失したものの、サキ山さんらの強い努力が実ったものと、して評価されています。

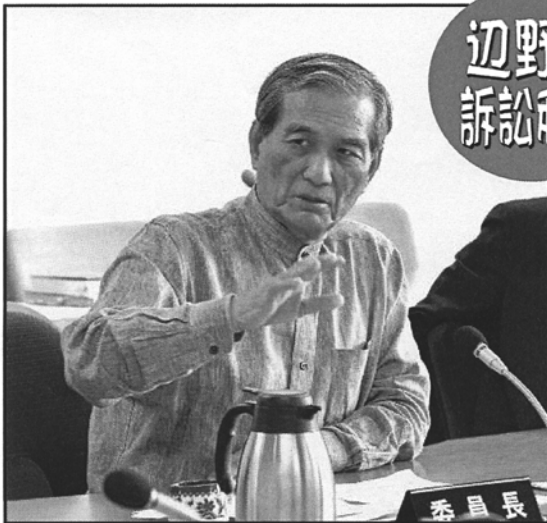
昨年8月からサキ山さんらは国にその是正を求め、内閣府に強く要請を行ってきました。国要請の報告は民間戦争被害者の会や対馬丸記念館の方々へも報告し、「国策で奪われた命や財産を想うと耐えがたい」と話し、ガマフヤー代表の具志堅さんは「国は軍人の遺骨にしか興味が無い」と怒っていました。





サキ山 かけはし

※このチラシは沖縄県議会基本条例に基づく議員広報紙です。



辺野古
訴訟和解

強権力に歯止め

国は握手の一方、「唯一辺野古」

普天間新基地を巡る訴訟で、3月4日県は、埋立工事中止を含んだ裁判所の案に沿って国と和解しました。しかし、安倍総理は和解で話し合おうと握手する一方で「辺野古が唯一」と、強行姿勢の拳を振り上げ、あくまで県民を屈服させる意思は変わりません。

県民からは「断念しない限り、国を信用しない」との声が聞かれるのも当然です。本当の和解ならば国の計画（県内移設強行）を見直す事に他なりません。

翁長知事は埋立を国が完全にあきらめるまで、新たな訴訟や法的に可能な知事の権限を行使して、徹底抗戦する構えで、民意を踏まえたぶれない姿勢は評価されます。

知事の著書に「場合によっては木の葉のように散るかもしれない、でも私たち責任世代は自分の姿を伝え、子孫に勇気と自信を持ってもらいたい」とあります。知事が議会で説明した「普天間の県外移設及び5年以内の運用停止」に向けて、オール沖縄の誇りを持って、

さらに知事の支援の強化が、今後必要だと崎山議員は訴えています。

国の県民を屈服させる意思は変わらず



県当局の和解について説明を受ける場で、会議を取り仕切る議会運営委員長の崎山議員

**県議会
予算審査**

沖縄の労働者、非正規率が44.5%
崎山議員、働く人の処遇改善は「将来への先行投資」

サキ山議員は県議会の経済労働委員会で、沖縄の非正規労働者の処遇改善について発言、積極的な政策実施を求めました。沖縄の労働者の非正規率は44.5%と全国一。不安定な雇用環境の改善が進んでいません。ワーキングプア率は25.9%と、就業者の4人に1人が働きながら貧困の状態、全国平均の約2.7倍。また、特に働き盛りの非正規社員が増大、社会保険未加入者も多く、将来社会全体のツケとなって跳ね返ります。年収も200万円以下で、このことは社会問題化している「子どもの貧困率・全国最悪の37%」にも関連し、処遇改善が県や企業の優先政策として急がれています。

崎山議員の発言に対し、県は「非正規労働者処遇改善

事業に取り組み、使用者との情報交換・セミナー開催などを進める、福祉部門と連携も図る」と述べていました。崎山議員は働く人の処遇改善（賃金UPや正社員化、貧困世帯への援助など）は、将来への先行投資だとして、沖縄の非正規・貧困問題への抜本対策を求めています。



ワーキングプア率 25.9%
全国平均 9.7% の 2.7倍

働けど楽にならない。不安定雇用の非正規労働者が全国一の沖縄

サキ山議員が委員会で聞いた日台漁業協定の発言要旨は次のとおりです。

①3月初めの日台会合で前進なく漁民は落胆している ②クロマグロ漁期にあわせ漁具流出対策の主張がかみ合わず、なぜ台湾側は歩み寄らないのか。③この海域は排他的水域ではないか、日本の国内法、国連海洋法で解決出来ないか。④協定水域での漁獲量や漁船の数は増えている、28年の見通しはどうか、など。

県は八重山三角海域の拡大など、29年度までに専門者会議を開き対応する、漁獲高は27年180隻116トンの実績と回答しました。

3月9日の経済労働委員会でサキ山議員は、なかなか進まない日台漁業協定について多くの発言をしました。

前進しない日台漁業協定



県議会経済労働委員会予算審査

経済労働委員会では農産物輸送費の補助についても質問。H24年度から一括交付金を活用して、離島から本土出荷の輸送費の軽減をはかる事業は、28年度28億円余の予算計上してあるが、交付団体数と出荷見込み額はいくらか、との質問に、県はカボチャ、菊、マンゴー類が多く、28億円の予算で、129団体、75,000トンを目標としていると回答していました。

崎山議員は、在沖粟国郷友会会長の与那城昭宏さんら役員と共に、浦崎副知事に航路運賃低減を要請しました。今、小規模離島は、航空路は特例的に、島民や観光客などに対し3割低減されていますが、航路については低減されていません。

在沖の人たちの往来は観光客よりはるかに多く、離島への経済効果は大きいのです。経済的事情で島へ帰郷を断念する人も多いとのことで、是非要請を受け止めてほしいものです。

崎山議員は飛行機事故で航空路の見直しがないこと、粟国港の整備を求め調査したり、改善に向けて県議会で多くの発言を行っています。

また、崎山議員の門中である屋我門中が粟国の伊佐家、安谷屋家と縁があり、特に力を注いでいます。



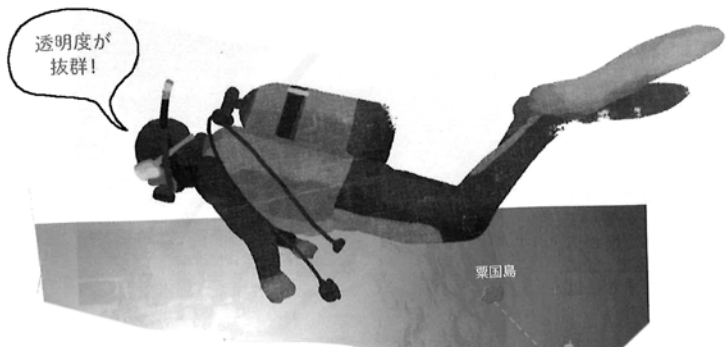
粟国島の航路運賃低減を浦崎副知事へ要請

ダイビング等の適正なルールを

安心・安全なマリンスポーツ事業のために



崎山議員は、NPO法人美ら海振興会の松井さんと共に、県議会に陳情書を提出しました。沖縄の魅力的な海に、海水浴やマリンスポーツやダイビングなどを楽しむ人が、本土や海外から増加しています。800前後もあるダイビング事業者は、届け出だけで運営できるあり方、技術向上やサンゴを守る運動、マナーの問題など、薄利多売の低価格問題が起こっています。そのため、ダイビング事業者は安全・安心なダイビング事業へ向けてルール作りを求めています。



粟国島

